

# 育連だより

<http://web-k.jp/ikuren/>

## 子どもリーダー研修会 八ヶ岳宿泊研修を終えて

川崎区子ども会連合会 伊藤 義昭

去る8月19日から21日まで、長野県富士見町の八ヶ岳青少年自然の家研修に行ってきました。今回は48名の研修生を引率し、楽しく厳しい研修を行いました。台風の通過後で天候は大変心配でしたが、運良くほぼ100パーセントの行事を達成することが出来ました。特にメイン行事のハイキングとキャンプファイヤーは予定通り行われました。少し残念だったのは、星の観察の日、雨天のため映像のみで望遠鏡での天体観察ができません。これは想定済みのため問題はありませんでした。

少し心配したイベントは2日目の鼻戸屋ハイキングでした。大雨警報が出る中、レインコート、カップを持参してスタートしましたが、上りが意外に急斜面で登りづらく、特に前日の雨で滑りやすく、スニーカーでの登坂には苦労しました。ハイキングであればスニーカー程度でもOKですが、今回の滑り

やすい斜面では登山靴とまでは言わないが、何らかの工夫が必要だったかもしれません。幸い途中ほとんど雨は降らず無事宿舎に帰りました。

後に聞いた話では、同じ日にハイキングで入笠山に登った高津区メンバーが下りの際大雨にたたられたとのこと。ほんの近くでこれほどの違いが出るとは？山の恐ろしさを思いました。

また、もう一つのメインイベントのキャンプファイヤーもキャンドルファイヤーでなく井桁に組んだ薪も順調に燃え大いに盛り上がりました。野外炊飯で作ったカレーライスも、子どもたちが自分で作ったことでとても印象深かったことでしょう。大人の役目として火おこしを手伝いましたが、紙が湿っているマッパで火がつけづらく苦労したことも思い出の一つとなりました。

ともあれ、無事で全てよしであった研修でした。



## 神奈川連盟創立70周年記念「スカウトフェスタ」

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 スカウト支援委員会 井上 景

7月13～14日、横浜市金沢区・海の公園においてボーイスカウト神奈川連盟の創立70周年記念のイベントとして「スカウトフェスタ」が実施されました。イベント当日は、開催が危ぶまれるほどの雨が降り、恵まれぬ天候にもかかわらず約3,000名のスカウト・指導者が集まりました。

今回のイベントは県内各団のボーイ隊（主に中学生）がゲームや工作のコーナーを展開する内容で、企画段階から子どもたちが中心となって準備をしてきました。

当日のプログラムは、ボーイ隊以上のスカウトは13日からの2日間の展開。1日目はコーナーの準備や前夜祭などを実施。2日目はビーバー隊・カブ隊のスカウト（主に小学生）が合流し、各団の準備したコーナーでゲームや工作に参加。会場

内にはほかに企業や団体のコーナーが設けられ、さまざまな内容のコーナーが展開され、どのコーナーも盛り上がりを見せていました。

天候も含め、さまざまな困難に出会ったイベントでしたが、雨にも負けない子どもたちの元気が際立った印象のイベントとなりました。



(写真提供：川崎39団ローバー隊)

## 第28回ボルチモア市ー川崎市スカウト交流派遣



～川崎市・ボルチモア市姉妹都市提携40周年記念～

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 派遣隊長 小林 美和

7月20日から8月5日まで、スカウト14名（BS9名、GS5名）と指導者4名（BS3名、GS1名）の総勢18名でボルチモア派遣に行ってきました。今回からGSが初めて参加するとともに、今年は川崎市とボルチモア市が姉妹都市を提携して、40年を迎える記念の年となり、姉妹都市委員会によるクルージングがプログラムに盛り込まれるなど、多くの場面でボルチモア側の温かい歓迎を受けました。

6日間のブロードクリークでのキャンプ、各ホストファミリーと過ごした時間、その他DCやNY観光など、私達にとって、忘れることができない思い出となりました。



### ボーイスカウト川崎第49団 新村 隼哉人

2週間のボルチモア派遣で、アメリカのキャンプと初めてのホームステイを体験した。もともとあんまり英語もできない方だし、初対面の人などに気さくに話しかけられるタイプでもないのでも緊張したし、すごく自分自身を心配した。しかし、実際に行ってみると、アメリカのスカウトはみんな優しく日本人に気がついて英語もゆっくりで簡単な単語を使ってくれるので安心できた。英語が得意でもない僕が海外で友達を作れたのはとても大きい事で、将来的にも大事なことだと思う。

また、キャンプでは、日本とは違った価値観であり、日本のキャンプとは全く別物だった。日本では文化や伝統を大切にしようとして、結構厳しいことを行っていると感じた。その辺はアメリカは別で、アクティビティーを協力しながら行い、楽しみながら技術や友情を磨いていくことだった。このようなことから、海外の人は日本人とは違ってフレンドリーなんだと思った。

ホームステイでは、事前にメールしていたので自分の行きたいところなどが行けた。また、色々計画してくれて満喫した1週間を過ごした。ホームステイでも会話はまあまあできて、全くわからない、喋れないということはない。

来年は自分たちが迎え入れるので、アメリカのスカウトがやってくれたように、最高のおもてなしをしていきたいと感じた。



### ボーイスカウト川崎第54団 佐藤 康瑛

今回初めての派遣は普段出来ない体験やアメリカスカウトとの交流などをする事が出来、とても楽しいものでした。それと同時に僕は、沢山の発見をする事が出来ました。

その中で印象に残っていた事は、どんなに環境や文化が違っていても、それ以外はほとんど同じだった事です。僕は派遣される前、アメリカは日本とは全く別の世界だと思っていました。実際に行ってみて初めは気候や建物、食べ物、言葉の違いから確かに日本とは別世界のような感じがしました。ですが、実際に話してみたり、一緒に生活してみたりすると、自分が思っていた別世界のような違いは実際そこまでの大きいものでは無い事を感じました。

また、この派遣は僕にとって自分を色々な面で変える事が出来たと思えました。僕は昔から周りの事を気にしてしまい、自分の意見をあまり言えず、ほとんど周りの人に合わせているような感じでした。ですが、アメリカではどちらでも良いと言う言葉が無く、YesかNoどちらかなど、意思表示をハッキリしなければならぬため、派遣の始めの頃は少し大変でした。ですが、意思表示を積極的にしていったため、派遣後の生活でも自分の意見をしっかりと伝えるようになりました。さらに、今までは、不安などからあまり新しい事に挑戦していませんでしたがこの変化から新しい事への挑戦は自分にとって必要な事であると感じ、新しい事に対して積極的に行動するようになりました。

これらの発見や変化を忘れずに、これからの生活に活用して行こうと思っています。



## ガールスカウト神奈川県第32団 平田 彩果

私は今まで6日間もキャンプを経験したことがなかったので、当初は長いなと考えていました。しかし、いざ始めてみると非常に充実していてあっという間にキャンプが終わってしまったように感じました。

ブロードクリークのキャンプ場では、ライフルやショットガン、アーチェリー、バギーの運転、モーターボートなど初めて体験するものが多く毎日が新鮮でした。このようなプログラムに加えて空いた時間にアメリカのスカウト達と一緒にゲームをして遊んだり、お互いの日常について話し合ったりしたのもとても印象に残っています。アメリカのスカウトのおかげで毎日が楽しかったです。

また、私はボーイスカウトと一緒に活動するのが今回初めてだったので不安もありましたが、6日間を共に過ごしたことでこれまで知らなかったボーイスカウトについて知ることができ、更に派遣隊の仲がとても深まったので参加して良かったなと感じています。

キャンプ最終日の夜、まだ派遣期間は終わっていないのに関わらず、アメリカのスカウトや派遣隊の皆と離れるのが悲しく感じたりもしました。今回のキャンプは私にとってそれほどかけがえのない思い出となりました。



## ガールスカウト神奈川県第40団 坂本 美優

ホストファミリープログラムでは、ガールスカウトのデイキャンプに参加し、サモアを作り、みんなでレクをし、折り紙を教える機会もいただきました。英語と日本語のそれぞれの歌を教え合ったりもして楽しい時間を一緒に過ごすことが出来ました。

派遣隊全員ではニューヨーク、ワシントンDC、ボルチモア市内観光にも行きました。ボルチモア市長表敬は緊張しましたが、市長がとても気さくな方だったのですぐにみんなの緊張が溶けていったのを覚えています。今回特別に用意してくださったクルージングは風が気持ちよく心地よかったです。その日のお昼はみんなで苦戦しながらも、ボルチモア名物の蟹を美味しくいただきました。

ボルチモアの野球チーム「Orioles」の試合を観戦した時は、日米スカウトの代表として、カラーガードとして旗を持ち球場に立ちました。貴重な体験をさせていただきました。

私のホストシスターは車を運転して私を色々な所に連れて行ってくれました。お土産の動物フェイスマスクをつけて笑いあったり、ソファで沢山話したり。どんな些細なことでも毎日が楽しくて貴重な体験でした。ホストシスターのハンナ、そして家族との思い出が沢山あり、感謝しきれません。

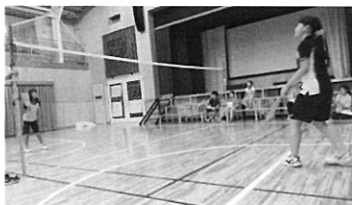
## 羽根つき部発足！

宮前区子ども会連合会 洲崎 康代

川崎市で続く伝統ある行事、川崎市羽根つき大会。毎年2月に行われ、今年で67回目を迎えました。

羽根つきといえば、晴れ着を着て羽子板でカラフルな羽根を打ち合い、落とした方が負け、罰ゲームで顔に墨を塗る日本古来のお正月の遊びですが、この大会の羽根つきは競技羽根つきといってスポーツとしてその技を競うものです。試合は、縦8m×横3mのコートのなかで、センターに透明なビニールのネットを設置、そのネットを挟んで選手が対峙、1ゲームは7点先取の3セット、トーナメント方式で行われます。小学生の部とお母さんの部、それぞれに個人戦、団体戦があり、小学生の部団体では小学生1年生から6年生まで「各学年同士の対戦」となり、4ゲーム先取で勝利となります。

最大の特徴は、2度打ちができること。相手が打った羽根を、まずはレシーブで受け、それをバレーボールのトスのように



真上に上げてスマッシュを打つ、そのラリーは、バドミントンとバレーボールをミックスさせたような迫力があり目が離せません。毎年冬の一番寒い時期に、各区の予選を勝ち上がった子ども会が激しく熱い戦いを繰り広げています。

しかし、宮前区では参加する単会が少なく、この伝統あるスポーツを何とか活性化させようと、区で初めて有馬こども会が羽根つき単独での部を立ちあげました。

監督より。低学年から高学年までそれぞれに体力差、得意不得意があるなかで、羽根つきのみならず、キャッチボールやコーディネーション・トレーニングを取り入れながら、基礎的な体力の強化に努めています。KEYは「楽しみながら」。

より多くの子供達に羽根つきの楽しさを知ってもらい、仲間が増えることを期待します。



## 海っ子の祭典 in 東京大会

川崎海洋少年団 山岡 修

令和元年8月2日、3日、4日の3日間にわたり第54回日本海洋少年団全国大会を国立オリンピック記念青少年総合センター及び大森ふるさとの浜辺公園で開催しました。

全国の海っ子が623名(43団)集まり、さらにイギリス、アメリカ、カナダ、香港の4団20名が海外から集まりました。

連日、35度を超える猛暑の中、日頃の訓練成果を競い合うとともに、友情のネットワークを広げる場として重要な大会となりました。

今回初の試みとして公共交通機関を利用して会場移動をすることです。今までの各大会ではバスをチャーターしてピストン輸送をしていたのですが、2020オリンピック・パラリンピックを1年後に控えた東京の道路事情を考慮して、公共交通機関を利用することとなりました。

宿泊所のオリンピックセンターから水上競技会場の大田区大森ふるさとの浜辺公園までの移動を



行いましたが、スマートフォンを有効利用した団員のおかげで、大きなトラブルもなく整然と予定通りに水上競技を開始することができました。

さて、競技の結果ですが、横浜団が総合優勝しました。大田区大森ふるさとの浜辺公園で行われた閉会式は、高円宮妃殿下のご臨席を賜り、総合優勝高円宮杯を御自ら横浜団に授与されました。

2年後に横浜市で全国大会が開催されることが発表され、閉会式を終えました。

## 県連キャンプ 感想

ガールスカウト神奈川県第32団シニア

ガールスカウト神奈川県連盟65周年記念キャンプに参加しました。初対面のスカウトとパトロールが組めることがとても楽しみでした。

初めての「甲斐の国大和自然学校」で一番驚いた事は、テントやテント周りの環境が予想以上だったということです。今回寝ることになったテントは建てたことのないドーム型のテントだったため、自然学校の方に教えていただき、パトロールで協力することで、建てる

ことが出来ました。テントの中は予想以上に狭く、斜面に建てているため、居心地が良いとは言い難いものでした。そこで、どう工夫すればテントの中で快適に過ごせるか、パトロールで相談しながらアイデアを出し合ってみました。例えば、荷物をテントの端に置けば少しでも中が広がるのではないかと試してみたり寝袋もパズルのように敷き詰めてみたり、結局のところ、1日目は皆あまり寝られませんでした。このようなことも含めてキャンプの楽しさだと思うので、良い経験だったと思います。

プチャワークライミングでは違う団のブラウニーやジュニアとペアを組んだので、シニアの責



秋山夏鈴・伊藤千遥・井上真琴・斉藤千佳

任を感じ、危ないところではおたがい声をかけ合い、一緒に体験して少し話すことも出来たし、仲良くなれた子もいたので良かったです。とても暑い日でしたが、川の中は涼しかったです。また、機会があればやりたいと思いました。

午後には中々体験出来ない座禅をやって、なぜ座禅が生まれたのかとか、誰が行っていたのかなどが分かって良かったです。だるまという人が座禅をやり続



けて、蹴られても押し倒されても起き上がり、また座禅を始めることからだるまが生まれたことを知って、すごいなと思いました。

天気にも恵まれ、いつもの団キャンプとは違う楽しさと体験ができました。友達も増え、野営をする上で大切なことや必要なものなど団でやっていたこと以外でも知らなかったことが分かったので行って良かったなと思いました。大人数だったからこそ出来たことともありました。

シニアレンジャーのみんなや、リーダー達のお陰で本当に心に残る最高のキャンプになりました。

またキャンプに参加したいと思います。

発行 川崎市青少年育成連盟

事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10

生活文化会館(てくのかわさき)3階

TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社